

令和4年度
泉佐野市立児童発達支援センター
事業所における自己評価結果表

令和5年4月

泉佐野市立児童発達支援センター
児童発達支援「木馬園」
泉佐野市子育て支援課

事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5年 5月 2日

事業所名 泉佐野市立児童発達支援センター

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	67%	33%	<ul style="list-style-type: none"> ・基準は満たしているが、利用者全員で集まる場合狭い。 ・音や視覚刺激が多すぎる場所もあり、工夫が必要。 ・狭い保育室があり親子保育時は活動の制限はあるが、クラスで工夫したり整理整頓している。 	部屋の広さについては、基準面積をクリアしていますが、活動によっては十分なスペースが確保できず内容が限られてしまうことがあります。保育室のスペースの確保について検討していきます。
	2	職員の配置数は適切である	69%	31%	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの状態により担任以外の先生に応援に入ってもらえることがある。 ・場面により足りないと思う時もある。 	
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	43%	57%	<ul style="list-style-type: none"> ・エレベーターがなく、必要な時は、多数の職員で対応している。2階保育室への給食の運搬は厳しい状況はある。 ・わかりやすく生活できるよう工夫している。 ・まだ十分ではないが、できる工夫をやっていっていると思う。 ・良好な環境にはまだ足りないところもあると思う(トイレや訓練室への移動経路など) 	バリアフリーの環境が整っていない箇所については、工夫し随時対応していきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	70%	30%	<ul style="list-style-type: none"> ・建物は古いですが、こまめに掃除し、清潔にするよう心がけている。 ・掃除はきちんとし、危険のないよう気をつけている。 ・心掛けているが、まだ工夫していけるところはああると思う。 ・老朽化している個所があったり、故障も気になる。 ・毎日掃除や消毒をおこなっている。意識も広まってきている。 	施設点検を定期的に行い劣化や修繕が必要な箇所は可能な範囲で迅速に対応し、引き続き、清潔な生活空間の工夫や子どもに合わせて安全に過ごせる環境づくりを工夫していきます。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	88%	12%	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の会議で共有したり、その都度声をかけ、意識を深めている。 	他職種の職員間での連携を意識し、積極的に行っています。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者アンケートを実施している。 	アンケートの結果を職員間で共有し、改善につなげていきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・市ホームページで公開している。 	
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	76%	24%		第三者による外部評価は行っていません。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・学習会やセンター主催の研修を行っている。 ・職員にアンケートを取って、すぐ活かせるようにしている。 	引き続き研修担当を中心に多くの研修の機会を設け、職員の資質向上を目指していきます。
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の思いや意見を、クラス、各担当と共有し個別支援計画を作成している。 また、計画内容について保護者とも確認している。 	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	94%	6%	<ul style="list-style-type: none"> 発達検査の実施。 	
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	100%	0%	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の支援やモニタリング等を通して、保護者と共有し、児童発達支援ガイドラインに基づいて計画を作成するよう努めている。 	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	96%	4%	・個々に合わせた計画をもとに日々の療育に活かすよう意識している。	
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	100%	0%	・担当者間で個別支援会議を定期的に行うことにより、子どもの状況把握や課題分析ができています。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	92%	8%	・子どもの様子に合わせて立てている。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	100%	0%	・保育と個別訓練が連携できるよう意識している。 ・毎月、全体で各グループの療育内容を報告、検討し、計画につなげている。	
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	97%	3%	・毎朝のミーティングで確認している。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	88%	12%	・担任、担当者間で報告・情報共有するようにしている。 ・任用形態により勤務時間が違うため、全員でできないこともあるが、終了後にできない場合は、必要な児とは療育開始前に確認している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	・個別日誌の記載。 ・時間のないときは、記録を後日記入することもある。	
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	・年一回モニタリングを行い必要に応じて判断している。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	96%	4%	・可能な限り関わっている担当者が参加している。	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・保健師や医師との連携、関係機関からの見学等、連携に努めている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	・相談があった場合、医療的ケア児等コーディネーターが関わり必要に応じて関係機関と連携して支援している。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	100%	0%	・相談があった場合、医療的ケア児等コーディネーターが関わり必要に応じて関係機関と連携して支援している。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・保育士、訓練士が巡回訪問や引継ぎを行っている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	・保育士、訓練士が巡回訪問や引継ぎを行っている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	95%	5%	・市内の児童発達支援事業所との連絡会を開催し、講師を招いて研修を受ける機会を設けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	85%	15%	・新型コロナウイルス感染防止等のため実施できていない。	令和5年度は計画的に実施する予定です。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	60%	40%		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	・できるだけ多くコミュニケーションを取るよう心がけている。 ・まだ足りないところはあると思うので、送迎時等に意識的に声をかけていきたい。	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	100%	0%	・担当部署の職員が連携しながら行えるようにしている。	
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	92%	8%	・利用説明会を開催して説明を行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	・支援内容を保護者と共に確認し、共通認識となるよう心がけている。	
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・訓練時や子育て教室で保護者のニーズに応えるようにしている。 ・保護者と会話することを心がけ、悩みも話せるようにしている。	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	・保護者会のあり方に疑問を感じることもある。	情報共有を細やかにに行い連携を図っていきます。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	96%	4%	・確実にニーズに応える見通しがすぐに持てない場合は慎重に経過を見ながら伝えるようにしている。 ・必要に応じて誠意をもって対応するよう心がけている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	96%	4%	・園だより・クラスだよりの配布や必要に応じて臨時のおたよりの配布をしている。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	・個人情報の管理場所を決めており、十分注意している。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	・個々に合わせた対応を心がけている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	24%	76%	・コロナ禍であり、行事を減らしたり内容を変更したりしたので、地域住民は招待できていない。 ・コロナ禍であり難しい。入園前の療育体験の子どもに少し参加してもらった。	
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	・保護者と共に避難訓練を行った。 ・毎月の避難訓練は行っているが、あらゆる場面に対応できるよう想定して実施することが必要。	マニュアルは作成していますが、内容の見直しの必要はないかを確認し、避難訓練に活かしていきます。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・月1回避難訓練を行っている。	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	100%	0%	・確認はしているが、予防接種まではできていない。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づき対応がされている	100%	0%	・医師の指示書に基づき献立を作成し、複数のチェック体制をとり提供している。	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	89%	11%	・所定のファイルに各自記入しており、内容に応じて全体で共有しているが事例集の作成はできていない。	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	96%	4%	・子どもの身体状況をチェックし、あざなど虐待が疑われる時は上司に報告し、迅速に対応している。	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	72%	28%		身体拘束等の適正化のための指針に基づき対応します。

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。